

満天星の天体望遠鏡から望む「中秋の名月」



名月は満月？

上の写真の月をよく見ると左側が少し欠けています。そう、中秋の名月は必ずしも満月とは限らないのです。

旧暦8月15日は「中秋」と呼ばれ、この夜にお月見を行います。ですが「名月」は満月かどうかではなく、日付によって決められているのです。そして月の満ち欠けの周期が厳密には一定でないことなどから、旧暦15日が満月にならない場合があります。今年の中秋の名月（9月25日）は、満月の2日前でした。

月の表情

さて、もう一度写真を見てみましょう。月のデコボコをクレーターといいますが、全体ではなく、欠けている縁に沿って多く見られます。月は毎日形が変わるため、見やすい地形や

クレーターも変わっていくのです。望遠鏡で見る表情の変化は、月の大きな魅力になります。

お月見の季節

9世紀ころ、中国から伝わった中秋のお月見の風習。収穫祭の意味も加わり、江戸時代には一般に浸透したといわれます。そのため「月は秋に見るもの」と思っています。しかし、月は季節を問わず見られます。冬の深夜の「月天心」、春の「朧月」など、日本人は年中月を好んで見てきたのです。

真脇縄文人も見ていたはずのこの月に、先ごろ日本初の月探査機「かぐや」が到達に成功しました。昔も今も、月の魅力は尽きません。あなたもあらためて「月」を見てみませんか。

（文：満天星職員）



広報のと 第33号

平成19年11月1日発行

発行：能登町 ■編集：広報情報推進課
〒927-1049
石川県鳳珠郡能登町宇出津新1字1-9-7番地-1

☎：0768-62-10000（FAX）0768-62-11111
能登町URL：http://www.town.noto.shikawa.jp
Eメール：info@town.noto.lg.jp

祭り大好きキーン！

11

平成19年

能登

広報のと
No. 33
2007.11

白丸曳山祭りで家々を回り「きやらげ」を唄う男の子は、足を地面につけずにおんぶされて移動します。